

〈第22世紀学会 研究会における発表〉

〈大学教育の輸出〉

ITと日本語による
大学の海外展開

2018年12月20日

e エデュケーション・プランナー
伊藤 征一

1. 自己紹介

e エデュケーション・プランナー

8年前に**星城大学**退職後、東京で**フリーランス**として、「**ITを活用した大学教育**」(遠隔授業など)の企画・実践を行っている

これまで行ってきたこと

- (1) 「**オフショアビジネス**」と呼ばれる国際ビジネスの**調査**
- (2) 「**オフショアビジネス**」などの**講演**を、**ベトナムの大学**などで**日本語**で行ってきた
- (3) 講演を聞いた学生と共に、**Facebook**内のグループとして、**日本語のネット・コミュニティ**を作って、**遠隔授業**や各種**情報提供**などの活動を行っている

2. 本日の話の内容について

問題意識

東南アジアにおいて、**ビジネス**や**教育**を**日本語**でできるようにしたいと考えた

そこで、日本語でビジネスを行っている事例として、**「オフショアビジネス」**を**ベトナムの大学生**に紹介しようと考えた。

そのために、**日本語**で**遠隔授業**を行うことにした

本日の話

1. 遠隔授業のテーマである**「オフショアビジネス」**について、お話しする

2. 「**実際に行った遠隔授業**」について、お話しする

3. 海外の大学との**「連携の仕組み」**を提示し、**「大学の海外展開戦略」**について考察する

今回の遠隔授業のテーマである

オフショアビジネス

3. ネットワークによる海外との作業連携

インターネットなどの**通信ネットワーク**が発展した

外国の人々と、通信ネットワークを使って**協同作業**ができるようになった

日本企業は、海外の**安価な労働力**を使おうと考えた

日本企業は、外国の企業に**作業を委託**して、**日本語**で協同作業を行うようになった

ネットワークによる
海外との作業連携

オフショアリング

オフショアリングを行う
ビジネス

オフショアビジネス

4. オフショアビジネスはなぜ成り立つか

オフショアビジネスでは

人件費の高い国から低い国へ作業が委託される

ソフトウェア開発の工数単価比較 (2008年)

東京と中国の諸都市	(単位:円/人月)
瀋陽	18-20万
大連	25-30万
北京・上海	30-36万
東京	60-120万

この他、規定に基づきエンジニア派遣費用等が必要

(出所) 筑波昌之「グレーター瀋陽における開発区建設と日系企業の動向」

ERINA REPORT 2008年1月号、環日本海経済研究所

5. オフショアリングの分類

オフショアリング

外国企業への作業委託と共同作業

ITO

Information
Technology
Outourcing

ソフトウェア開発や
情報処理、システム運用等、
IT関連業務の委託

BPO

Business
Process
Outourcing

財務・経理・人事等の
事務処理や、データ入力、
電話対応業務等、
事務関連業務の委託

6. ソフトウェアのオフショア開発

アメリカの会社が、インドのソフトウェア開発会社に、ソフトウェアの**オフショア開発**を委託してる

設計工程をアメリカ側で、**プログラミング工程**をインド側で行っている

単なる外注ではなく、ネットワークを活用した企業と企業の**協同作業**（丸投げではない）

相互のコミュニケーションが重要（言語は**英語**）

日本の企業と大連市などの**中国**企業との間でも、同様のことが**日本語**で行われている。最近では、**ベトナム**やインドなどとも同じことが行われている

日本語が使われていることが重要

7. ソフトウェア開発における日本とベトナムの連携

日本企業から、賃金の安いベトナム企業に、**ソフトウェア開発を委託**し、**通信ネット**と**日本語**を使って、**相談**をしながら、**協同作業**を行っている

日本企業

ソフトウェアの**設計**

(通信ネットワーク)

電話、電子メール、データ通信
電子会議、テレビ会議

打合せ・相談

通信ネットワーク

日本語

開発を委託

ベトナム企業

(賃金が安い)

ソフトウェアの**開発**

8. 日本からの委託先

日本からの委託先は、賃金の安い**中国**が大部分を占めていた

最近は、中国の**人件費の高騰**や**政治的リスク**を反映して、**ベトナム**が注目されている

ベトナム最大の情報通信関連の企業グループとして、**FPTグループ**がある（設立：1988年）

FPTグループの中で**外国向けのソフトウェア開発**を行っている会社として、**FPTソフトウェア社**（設立：1999年）がある

売上高 **160億円**（2014年12月）：**半分が日本向け**

従業員数 **9,000名**（2015年10月）

2010年に、**事務処理業務（BPO）**も開始した

FPTグループは、**日本語のできるIT技術者**を育成するため、**FPT大学**を作った

9. 事務関連業務のアウトソーシング

財務、経理、人事管理業務など、
各種の**事務処理業務**

データ入力業務

電話問合せ対応業務
(コールセンター)

10. データ入力業務

中国で日本向けデータ入力業務を行っている企業として、瀋陽に、**3,000人規模**の要員を有する日系企業がある

(事例) 「申込書」のデータ入力

日本

日本で、「申込書」を**スキャナで読込んで**中国に送る。その際、「**氏名**」と「**住所**」を分けて読み込み、**別々に**送る。

中国

中国では、氏名と住所の**担当が分かれており**、それぞれが日本から受取ったデータを入力して、**別々に**送り返す。

日本

日本では、**送り返されたデータを合体**して完成データにし、それを**チェック係が確認**する。

日中間の情報のやりとりは、**データを氏名と住所に分解して、個々のデータだけでは意味をなさない**ようにしてあるため、送信途中で情報が漏れても、**セキュリティ上の問題が生じない**

11. 電話問合せ対応業務(コールセンター)

日本の顧客からの問い合わせや苦情の電話が、自動的に**中国のコールセンター**につながり、**中国人が日本語で対応している**

デル社、ノートン社など

電話問合せ対応の例

パソコン販売会社が販売した**パソコンの使い方**に関する問合せ

ソフトウェア会社が販売した**ソフトウェアの使い方**に関する問合せ

製造業の会社が販売した**商品**に関する苦情受付や問合せ

電話問い合わせ対応の仕事は、単なる電話番ではなく、日本語ができて、パソコン、ソフトウェアや自社製品の**知識を必要とする高度な仕事**である

遠隔授業

テーマ : オフショアビジネス

対象 : ベトナムの大学生

言語 : 日本語

12. 日本とベトナムの大学生の交流のための ネットコミュニティの構築

遠隔授業などの活動を行う場として、facebookのグループを使い、ハノイの大学生をメンバーとするネットコミュニティを運営している

(活動内容)

- ① 日本語による遠隔授業
- ② コミュニケーション(議論)
- ③ 情報提供(日本語の使い方など)

(参加者：以下の大学の学生)

貿易大学、人文社会科学大学、 FPT大学

13. FPT 大学での講演



14. FPT大学における日本語のできる技術者の育成

FPT大学は、**日本語のできるソフトウェア技術者**を育成するため、FPTコーポレーションが2006年に設立し、**2007年1月に開校**した大学である。

・ハノイ市、ホーチミン市、ダナン市に**7000人**が在籍(2016年)

・うち**6割以上**がFPTソフトウェア社に就職。

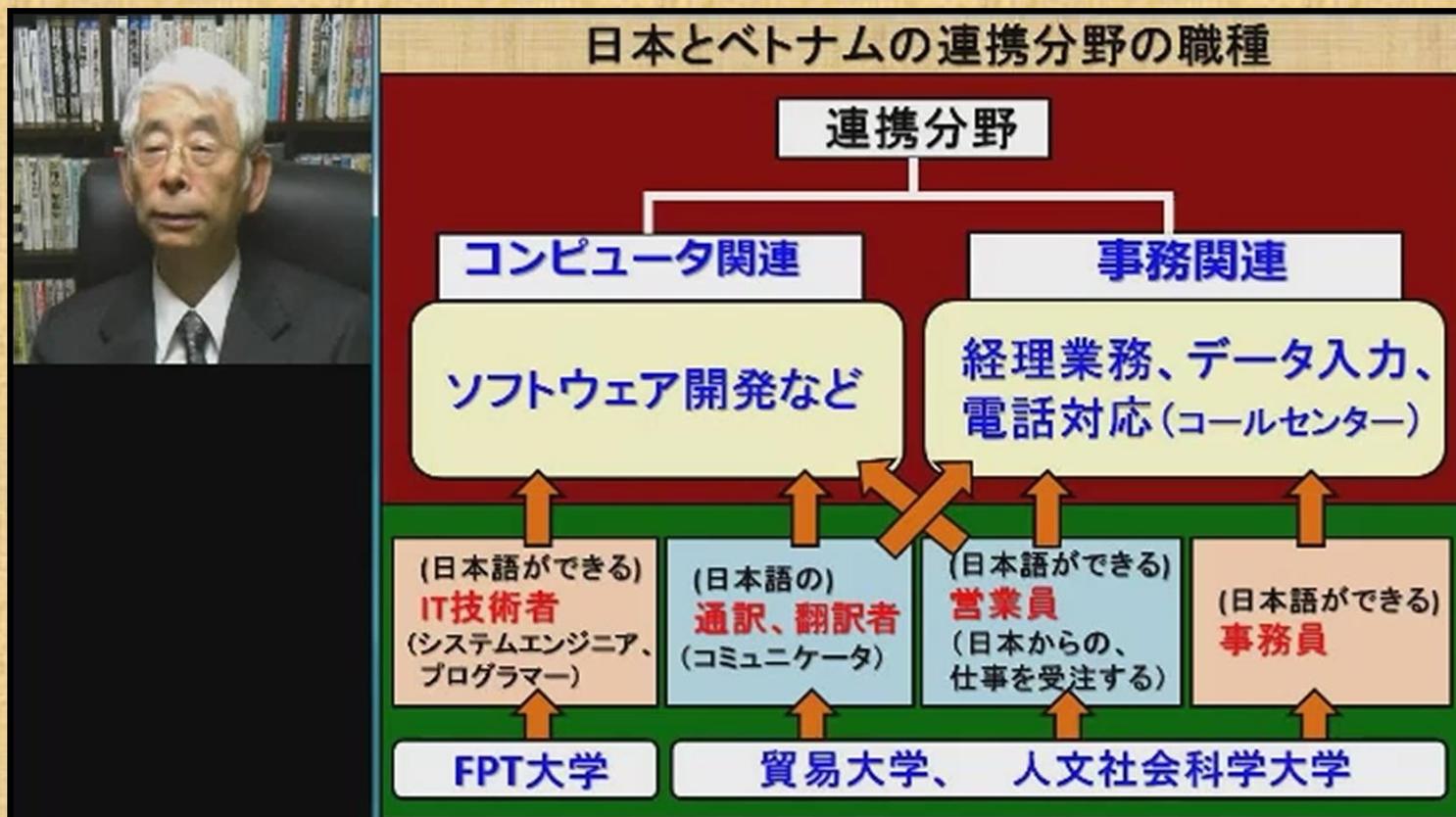
- ・学生は初めの2年間で基礎学習を行う
- ・その後、**FPTソフトウェア社**で**4~8か月のOJT**の訓練を受ける。
- ・OJTを終えた後は、自分の専門の勉強を行う

- ・**語学は必修**で、2年間の基礎学習期間に英語と日本語を学ぶ
- ・最初に英語を学び、一定レベルをクリアした後に日本語を学ぶ

- ・**日本語は**、1学期(10週間)に、**90分授業を週3回受講**する
- ・**日本語が一定のレベルに達しないと、OJTに進めない**

15. 遠隔授業の画面

教員が話す画面とパワーポイント(PPT)の画面を連動させた映像を制作し、**YouTube**にアップロードした



<https://goo.gl/tCI0HC>

16. 遠隔授業の内容

ネットコミュニティの中に、**日本語**による**遠隔授業**があり、希望者は自由に見ることができる

オフショアビジネスに関する授業が5回(1回20分)

<https://www.youtube.com/user/SakuraJukuV>

(総括) ソフトウェア産業などにおける日本とベトナムの企業連携

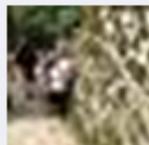
(第1回) ベトナムで日本語を学ぶ大学生の皆さんへ

(第2回) オフショアビジネス(1) - ソフトウェア開発を外国に委託 -

(第3回) オフショアビジネス(2) - 事務処理業務を外国に委託 -

(第4回) オフショアビジネスによる日本とベトナムの連携強化

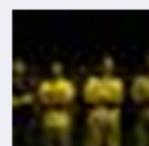
17. 遠隔授業に対する学生のコメント



Shiroi Bara 先生、この授業を見たが、面白いね。大好きですよ。一回見ただけで、いろいろな所があまり分からないでも、もう一度見るつもりです。ほかの授業も見たいです。^^



Fuenkain 先生がおっしゃったによると、ベトナムにはある日系企業例えばキャンノンとか、日系みずほ銀行とかで貿易大学の学生が多くってびっくりしました。貿易大学でビジネスを勉強している私の友達が日系企業に勤めたいと私に言いましたので、最近、日本語を勉強しています。先生のビデオを見たら、「友達にいいチャンスかな」と思います。



Favouritefood Tuan 伊藤先生、ビデオについていろいろなことを学習しました。ありがとうございます。そうですね。このビデオの中で、それは日経企業で実状ですね。ビジネス人材が多くない。各大学で殆ど日本語を勉強して、日本国に関する日本語の以外の知識は多くない。私が貿易大学の経済学部であるですが、経済に関する知識が不足だと思います。もし経済の分野に関する日系企業で働きたい、必要なことは日本語だけでなく、日本語で経済の知識も要ります。でも大学四年の間に、日本語で経済について知識が一年間勉強するだけ。だからたくさん困りを越した。

大学の海外展開のための ビジネスモデル

18. 海外展開の枠組み

海外の大学と提携関係を結ぶ

提携大学の学生に遠隔授業を行う

大学の授業として単位を付与（重要）

使用言語は日本語

遠隔授業の映像

教員とPPTの画面を連動させた映像を作る

授業映像をYouTubeに載せる

学生の管理

ベトナムの学生との実験では、facebookを使ったが、管理が十分に行えなかったため、専用の「授業管理システム」を使うことにする

19. 授業管理システムを海外の大学に延長

クラウド型の**授業管理システム**(注)を学内に導入

デジタル的
管理

教員による**課題の出題・回収・評価**

学生同士の**レポート閲覧**

質疑応答やディスカッションのための**掲示板**

学生の提出物、教員からの配布物、各種資料、就職活動の記録などをため込んでおける「**ポートフォリオ**」スペースを、学生ごとに付与

(注) 授業管理システムとしては、Asahi ネット社の manaba folio などがある

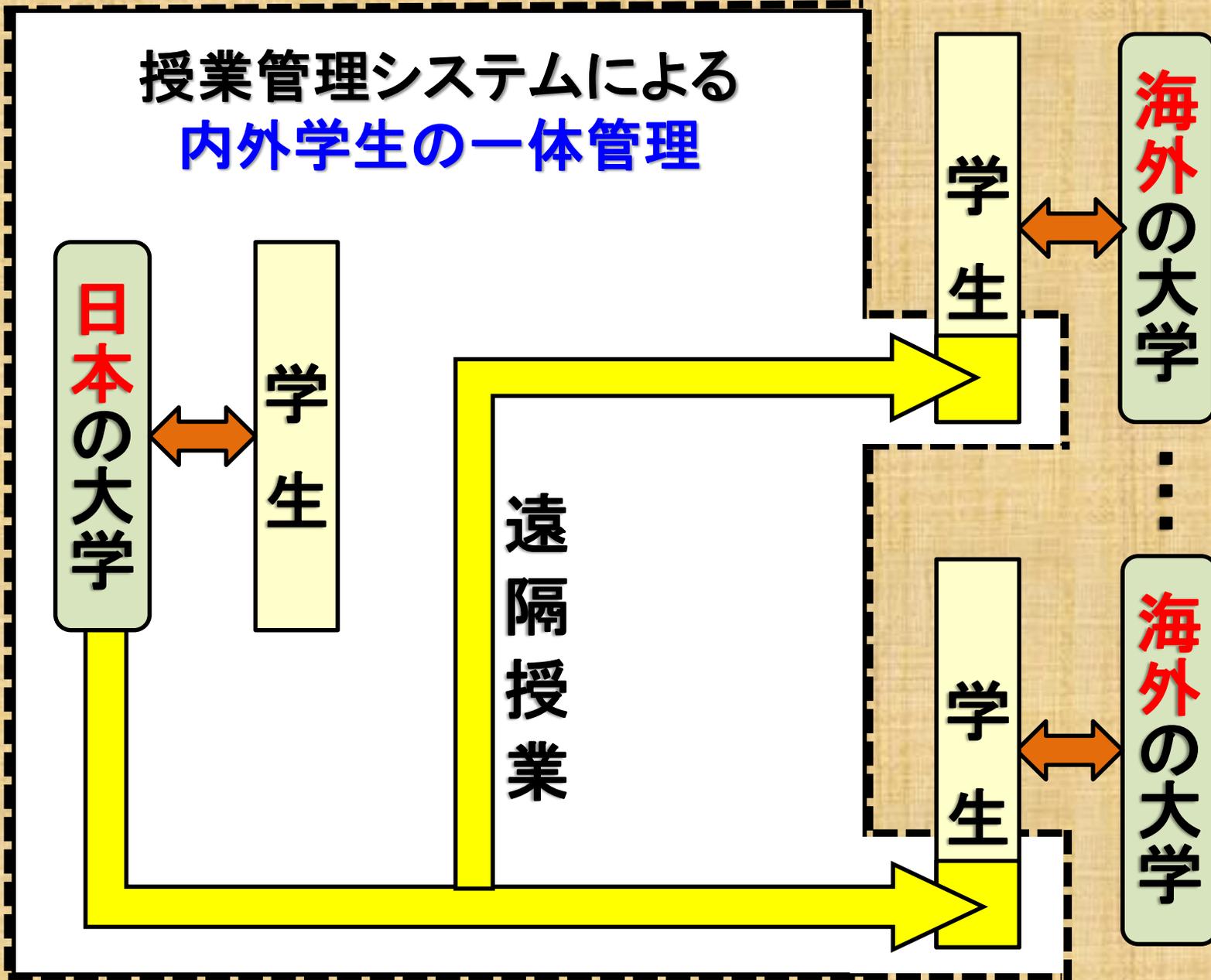
学内の授業管理システムを**海外の大学に延長**

国内の授業と海外向け遠隔授業を**同一システムで管理**

海外の学生と国内の学生とを**一体的に管理**できる

これを拡大していけば、**海外に分校が作れる**

20. 授業管理システムによる海外の大学との連携



21. 費用

授業の映像制作は、担当教員が1人でできる

担当教員が、Webカメラの前で話をしつつ、PPT画面を進めていく

終了時点で、教員の顔とPPT画面を同期した映像ができている

追加ハードウェア費用は、ほとんど不要

既存のPCとモニタがあればよい

Webカメラが付いていない場合は、追加する(数千円)

追加ソフトウェア費用は、ほとんど不要

YouTube(無料)、facebook(無料)、映像制作ソフト(無料)

facebookの代わりに**授業管理システム**を使う場合、既に学内に導入済みであれば、**学生数に応じた追加費用のみ**

22. 以上の方法による大学の海外展開の特徴

新たな組織を立ち上げるのではなく、提携校の中に
ヴァーチャルな出先を作る

遠隔授業の位置づけは、多数の受講者を集めて
受講料を得るものではなく、「海外の大学との連携
関係を作るための道具」ということである

遠隔授業のテーマは、概論的なものではなく、相手国
および提携校のニーズに合わせて特定の分野に絞る
例: オフショアビジネス

この仕組みの特徴は、設備費や管理費が少なく、
学生集めも不要ということである

この仕組みができれば、海外に分校を作るなど、
工夫次第で種々の展開が可能になる

23. 結び

この仕組みは、**小規模**であるが、**低コスト**でしかも**日本語**で行えるので、**簡単に作れる**

特定テーマについて、**海外の学生**に授業をしてみたいという教員が何人かいて、**草の根的**にこの仕組みを作れば、**全体的にみれば、それなりの規模**になる

今回の報告は、上記の考えに従って、一つの**プロトタイプ**を提示したものである

24. 参考文献、連絡先

(参考文献)

<電子書籍>

伊藤征一「ITと日本語による大学の海外展開」

アマゾンで、「**伊藤征一**」で検索できる

(連絡先)

伊藤 征一

(e-Mail) s.itoh@my.email.ne.jp

(facebook) <http://www.facebook.com/seiichi.itoh.90>